法政大学学術機関リポジトリ

HOSEI UNIVERSITY REPOSITORY

PDF issue: 2025-01-15

宮崎縣冨島町附近の讀図

九鬼, 將憲

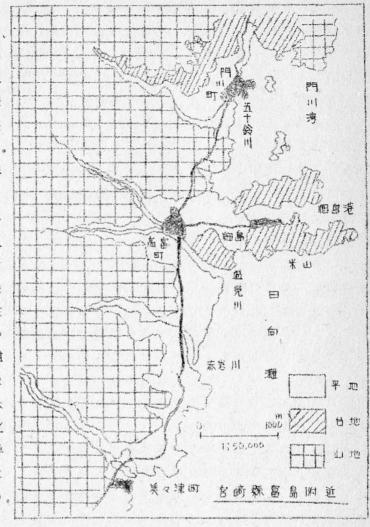
```
(出版者 / Publisher)
法政大学地理学研究室
(雑誌名 / Journal or Publication Title)
法政地理
(巻 / Volume)
1
(開始ページ / Start Page)
29
(終了ページ / End Page)
31
(発行年 / Year)
1950-07-01
```

宮崎縣富島町附近の震図

九鬼粉憲

(五万分の一富高参照)

日豊本像门司港を 発して南下七時向余 宮崎大分雨縣境の陶 断なき数十個の隧道 を通過して眼的に展 南されるのは宮崎県 東海岸の平野である。 由東ル州の南東海岸 は壯年期の峻嶮なる 九州山脈が迫って平 野に思まれず、裏九 帆として文化に浴す ることが少なかった ことは、日豊線の全 **遍が大正十里であっ** たことに依つても祖 察される。日向難に 面して極めて単調な る宮崎海岸平野の北 部に位する唯一の要 建細島港と富高町は 就りて这でてみたい。 1. 海岸地形



図を見ても大体沈降海岸であったことを推察し得る。土地の沈降により 門川湾及が数個の島屿を住いた。 之が再び土地の隆起る見同時に五十鈴川、 堀見川下流の堆積と共に小平野を住成して現在に至ったものと思わ 引る。

櫛山、畑浦の丘陵も曾て口峰の漠が島崎となり更に陸範して釉島巻を包む二川半島を形成するに至ったものであろう。

土地の曜起は五十鈴川及び南部の美々澤川に穿入田流 8 見ることによっても寮畑される。しかもこの田流は屈虫の内側の谷壁(潜走料面)が緩

膜科になり外側(攻車斜面)が侵蝕せられ急傾斜となっていることによっても之は生高曲流と見るできであるう。

海岸に面する岩石の海蝕甚しく僅かながらも海蝕台を見ることによって この海岸の風浪の景がしいことが助られる。事実日向難は玄海遠江と共 た古来海上交通の難断と知られ殊に季節風の卓散する夏から秋にかけて の激浪は強烈を経のこの地方の海上交通の発響を狙むところが大であっ た。寄頼地としては細島港を数える位で他に立々名、内川、美々津など を有するも浅く僅かに小型激船の出入を許す程度にすぎない。

個見用下流の推薦は小倉英を作りでの面北部を流れる旅岩川の川口を南下赶回せしのたが、一には海岸潮流のためでもあろう。小規模ながら五十鈴川下流の砂浜も円川湾内に潜入する海岸潮流によるものと思われる。 尚小倉浜背後の一型の針葉樹の植生あるのは砂筋料であろう。

2 土地利用 ― 国島の性柏―

この圏による土地利用は概ね山地は森林、台地傾斜地は畑、低地は水田 と大別されるが、最も注目すべきは、留高町北部の早牡竿的に開析が進 24. 一つの 乃至二〇〇 米の白地状の共襲台地の長触台の上に限りなく水 田が腐みれていることであり、平坦なる自地を開析する靭枝状の谷に一 本一本綱長く入りこんだ水田の分布には、窪ましい農民の住居寮鑑の跡 が 窜 われ、 之日 我 が国に於ける 耕加の 発達の 特色を示す典型的なもので あろろ。この初地の分析によっても知られる他く園島町は純農村である 5。しか 生かな リ 醫 稲 であ リ 旧 幕 時 代 に は 史 韶 至 間 の 内 藤 緒 南 新 高 渦 の 秋月蕃の中間に位置して、蔡府遺轄の天領としてこの地方では将異な村 在をなしていた。而してこの町は皆ては現在の富高の南部颇見川石中の 鮮光寺山下附近にあったが明治ニ十年面都山陰方面よりの街道が切通を 釋って商爵し交通の要奏となり たのにこの町は瀬次北方に稼動し、国 麩及び山陰街道の交叉兵を中心として町(集落)が発展し時怕かも大正 末期日豊穣の周週と共に地の利で占めを町は急激なる発展を巡げたので ある。この附近の道野は主ヒレて海岸若くは河川の谿谷に沿っているが この山麓街道は西方上推集列を経て熊本泉方面へ発がる唯一にして且単 要な交通路をなしている。

富高の東に細島がある。細島港は前退せる如く極めて水深大で、大阪 方面への直航路を行する良港であり、台崎県東海岸が一連の砂浜をなし 漁港に乏しいこの地方としては、電海漁業の基地をなして糸市場主売締 され、所謂瀬村らしい類村であった。又こうに較潮前が題かかていることは著名であり之はこの入りこんだ若湾内部が贈る静穏であることを物語っている。

国高と細島とは古くは別個に発展していたが鉄道(細島線)の敷設と共にその関係は極のて密接となり面面は有限担通い近耳併名によって富島町の誕生を見るに至ったのである。

国部と全く相異った立場にあるのは南部の淡山葉路たる隣邑美々建街である。旧幕時代には美々津川山を利して類主秋月侯の参勤交箇時の発航地をなし交通上の一等街として栄え、明治初期までは城下有数の都国として知られていたが、近望美々津川上流に発電所が設置され、鳥に河川の水量窓鎖し割へ日笠本線の開通と共に最早河港としての機能を全く失ってしまった。しかも元末期地に乏しく従って農村としての経営も不可能であり、鷺村に転ずべき資本もなく立地條件にも悪まれない当町は唯一微への一途を辿りつうある現状なのである。

◎ BB 和 2.4 年 度 諧 義 題 目

(敬 抵 氏 五十 音 順)

受井 辰 部 (

O. 典理学演習 (H. Whitbeck; The Geographic Factor)

新 并 浩

〇 血理学特殊講義 (集 若 地 理 学)

〇 地理学與習 (卒業 擴文 指 專)

大久保 武 彦

○ 世理学実習 (図式 と 測 量)

岡 山 俊 雄

〇自然 地理 学 (読 図)

〇 自然 地理学 痩 智 (競 図)

夛 田 文 男

〇 自然 地理学 (植物 把理学、主 壤 学)

〇 地龍 音論(为4) (ドイツ及北欧地誌)

田中館秀三

〇 地理学特殊 蠲 義 (漢 洋 学)